



木材の可能性。その先へ

DAISANSHOKO POLICY



# DAISANSHOKO

わたしたちが  
大三商行です

株式会社 大三商行

昭和25年の創業以来、大三商行には変わらぬポリシーがあります。木材の可能性を広げること。「木」と「人」に向き合うこと。時代の変容とともに事業を変化・進化させながらも企業の社会的責任を果たし、豊かな社会を創造すること。持続可能な社会の実現が叫ばれる今、私たち大三商行もSDGsに賛同し、森林循環や地域スポーツの振興など様々な項目に積極的に取り組んでいます。唯一の再生可能な資源である木と共に歩み、地域と共に生きる。様々な壁を超えて挑戦し続ける。私たちの姿勢をお伝えします。



DAISANSHOKO POLICY

## 森林の循環に寄与し 自然の恩恵を使いきる

大三商行は、創業時から宮崎県とゆかりが深く社有林も保有している。サステナブルな森林の循環を標榜し、豊かな自然を守るために、切って使って植える、そのサイクルを守り健全な森林の生育に寄与している。ここ宮崎県はスギの生産量日本一の地。雄大な自然と太陽、海が調和する街、日向市にサンテック事業部はある。杉の一大生産地でありながら、「九州のスギは扱いが難しい」とされていた。杉の有効活用を考えたどり着いた答えは、LVL(平行合板)の製造だ。高品質なLVLには原材料となる単板の品質が命。非常に難しいとされる杉の乾燥という壁も、長年培った経験と技術で突破し、高品質な製品を確立してきた。山から大きな恵みをいただいている私たちが出来ること。原木を無駄にせず、余すことなく使いきる。製材不適格な曲り材や大径木も有効に使い、端材はバイオマス燃料として活用。森林の循環に貢献するとともに材料への敬意を払う。そんな環境思想が、ここサンテックには息づいている。



DAISANSHOKO POLICY

# 誠実に住まう人を想い 高い技術で応える

関東一円の巨大マーケット、その要所に位置し供給拠点である千葉支店。プレカット黎明期の1993年に千葉で最初の工場が誕生。いまや2カ所のプレカット工場と建設チーム西東京営業所を擁する大三商行プレカット事業部の要でもある。近年、建築部材として木材の価値が見直され、特殊な加工や高い技術が求められる中、特殊加工機を備えた大型工場の生産力、そして高い技術と誠実な姿勢で、社会のニーズに応え続けている。

さらに2022年4月、東金工場、市原工場に太陽光発電を設置。工場の動力電源として利用するとともにSDGsリリース『みらい2030®』を活用し、リース料の一部は森林保全活動に寄付されるなど、持続可能な事業を体現している。



創業の地、岡山。東西両拠点の一翼を担う玉野市のプレカット工場では、機械加工と熟練大工による手加工を合わせ、あらゆるニーズに細やかに対応。大三商行の源流でもある木材卸の要所として、国産材から輸入木材まで幅広く取り扱っている。木造建築の可能性を追求する大三商行は、材料の提供だけに止まらない。プレカット工場では特殊加工機を持つ千葉支店と協力して非住宅物件にも多く取り組む。「できない」と言わず「できる」方法を考えて挑戦し続けている。

そして、岡山市の社は、従業員の働き方や職場環境の整備などを推進する発信地でもある。働きがいや叶える魅力ある職場には、今日も若い社員たちの活気と笑顔が満ち溢れている。



DAISANSHOKO POLICY

# 事業推進の本拠地にして発信源 木造建築を支えるサービスを展開

# 大三商行が体現する “木材の可能性その先へ”

## The Naoshima Plan 「住」

瀬戸内国際芸術祭2022【The Naoshima Plan「住」】で展示される建築の木材を加工。日本の伝統的な工法である平柱貫工法の良さを取り入れた建築であり、木材の美しさが遺憾なく発揮されている。



## 木の温かみあふれる保育園

千葉県船橋市の保育園建築では、木材が大好きな理事長先生が自ら山に入り選んだ原木を製材し加工。使用した杉無垢材は工場て仮組みを行い、接合部を確認して出荷。建て方工事も大三商行が行っている。



## 無柱空間が見事な林業技術研修棟

岡山県北、勝央町にある森林研究所内に新設された研修棟。岡山県産の桧が使われた広さ約268㎡の無柱空間は、18体の平行弦トラスと在来工法で実現。プレカット加工と建て方工事を行った物件。



## 延べ床面積730㎡のクリニック

延べ床面積730㎡という広さを持つクリニック。1階には、8Mの化粧登り梁と方杖梁がバランス良く配置されており、開放感を感じる空間を実現。周辺の緑と調和する美しい建築が完成した。

